

AI 思考と行動の要件枠組

AIとして機能するには、データ取得を始めてとして8種類の要件が必要になる。
 目的を明らかにして、取り出す結果を定めて分析条件が設定される。

	無条件分析	条件分析	
データ取得	無制限	時間区分	分野区分
分解	最小単位	分子単位	要素単位
分類	非分類	既存分類	条件設定
計算	単純計測	設定計測	排他計測
検索	一致検索	近似検索	排他検索
組合せ	全組合せ	条件設定	方法設定
認識	無対象	実物比較	概念比較
反応	無反応	反応条件	類推条件

ありとあらゆる全てのデータを取り込み、判断が下せる状態になれば、次の社会を考えられる、or創造できるAIが実現するかもしれない。しかし、全データを取り込み分析したところで、目的、方法、方向が定まらなければ分析結果は拡散するだけである。



目的が定められて、分析対象、分析の組み合わせ、分析方法が決められる。分析結果は、目的に応じて求められる。一時的な解、普遍的解、象徴的解等々、どれもが、検討し活用されるために求められる。

AI囲碁は目的と方法、枠組が明確である。AIの結果は、相手の反応があって機能する。



AI囲碁の場合

- ① 19×19の枠内で考える。
- ② 道具が2種類の基石である。
- ③ 目的は一つである。
- ④ 相手は一人である。
- ⑤ 方法は一つである。
- ⑥ 進行方法は一つである。
- ⑦ 進行に従ってパターンは減少する。
- ⑧ 終わりがある。

AIの場合

- ① 考える枠組がない。
- ② 道具、材料は大量にある。
- ③ 目的は大量にある。
- ④ 相手は大量にいる。
- ⑤ 方法は大量にある。
- ⑥ 進行方法は無数である。
- ⑦ 進行に従ってパターンは拡散する。
- ⑧ 終わりがなく、拡散する。

枠組、条件を外すと、AIの分析結果は、ただ拡散するだけである。ただ、戸惑うだけだ。